

戦中・戦後の子どもの視点からの オーラルヒストリー 山里栄昭氏

岐阜女子大学

「沖縄おっらい」

目 次

1. 山里栄昭先生の生い立ち
2. 大浜小学校の生活
 - (1) ヘクソカズラ（ピーフツカズラ）事件
 - (2) アダンによる校舎の偽装作業
3. 八重山中学校の頃
 - (1) 八重山中学校の入学式
 - (2) マラリア蔓延
4. 日常の生活・日課
 - (1) 馬・山羊の草刈り、鎌投げ遊び
 - (2) 陣取り・たまご取り遊び
 - (3) 水泳 – 芭蕉の幹 –
 - (4) 空襲・蛸壺
5. 苦い思い出
6. 小学校の運動会・遊び
7. 当時の食生活について
8. 子どもの楽しみ
 - (1) 正月
 - (2) 豊年祭
 - (3) 獅子舞

岐阜女子大学「沖縄おっらい」

戦中・戦後の子どもの視点からのオーラルヒストリー 山里栄昭氏

1. 山里栄昭先生の生い立ち

聞き手 稲福先生

では、山里栄昭先生をお迎えして、沖縄の戦中・戦後の子どもの視点でのデジタル・アーカイブの収録ということで、本日は岐阜女子大学の眞喜志さん、それから照屋さんに聞き手として入っていただきます。

では先生、よろしくお願いいたします。

山里先生

それでは、まず私自身の経歴を簡単にご紹介します。私は父・山里長敬、母・クイタの8人きょうだいの一番末っ子として、大浜町字大浜で生まれております。姉が5人、それから兄が3名の一番下でございます。ただ、実際にうちで一緒に過ごしたのは5名で、あとの残りの方は、もうすでに嫁いでおります。

その中でも、特に、私が親しくしていたのは、私のすぐ上の兄と、それからもう一つ上の兄。で、一番その姉から、いろいろ勉強その他を教わりました。

で、きょうだいの中で、小学校から高等教育を受けたのは、3番目の長子（ますこ）姉。彼女は沖縄の工芸高校、工芸学校に行きました。その次は、私の上の上の姉。これが農林高校に行っております。

で、私は、経済的には、本来は上の学校に行ける家庭的な状況ではなかったんですけども、終戦直後、契約学生という制度がありまして、ちょうどその制度に乗って、試験が受けられましたので、横浜国立大学に進学いたしました。

まあ、このように、石垣での家庭状況というのは、上の学校、つまり高等教育を受けるような状況下にはなかったというのが、普通の家庭だと思います。

2. 大浜小学校の生活

(1) ヘクソカズラ（ピーフツカズラ）事件

山里先生

小学校は、集落で言いますと、大浜の集落、それから平得の集落、真栄里の集落と、この3つの集落から、一つの学校。大浜小学校といって、ちょうどその中間に学校がありました。鉄筋コンクリートの立派な学校でして、そのほかに右側に瓦葺きの平屋が2つありまして、たぶん私たちが通ったのは、その平屋の学校だったと思います。

そこでのエピソードが一つありまして、ちょうど4年だったと思いますが、先生をちょっと困らせてやろうということで、方言で言うピーフツカズラですね。えっと、何でしたかね、ピーフツカズラ。これを教卓に入れて、困らしたことがあります。案の定、みんなひざまずきさせられて、説教を食らったということです。

その先生が黒島先生といって、いまも、あの今帰仁（なきじん）におられて、教育界で非常に活躍をなさった方ようです。

この先生にも、私の『球陽橋』という本ができたので、お送りしましたら、やはりその件に関して感想を述べられまして、本当は、皆さんは科学的な実験をするつもりでやったのに、私はとんでもないことをして皆さんをしっかりとつけたということで、非常に後悔しているというふうなお手紙をいただきました。

直接にお会いしてないんですけども、もし機会があれば、いろいろその当時のお話もしてみたいと思っております。

ちょうど、写真がまあ一つありますけれども、そのとき、黒島先生が撮ってくださった写真だと思いますが、私もあまり気づかなかったんですけども、そこには、ううんとヤギさんがいるし、ウサギさんがいるということで、実は、今日司会されている稲福先生からご指摘を受けて、やっぱりヤギもいるなというぐらいのもので、私も気づいたわけなんです。

たぶんヤギだとかウサギなどの飼育も、その時分はクラス単位ではなくて、学校全体で飼育をしていたんじゃないかというふうに、今は思っております。

2. 大浜小学校の生活

(2) アダンによる校舎の偽装作業

山里先生

それから、5年のときですかね。もうだんだん戦争も、戦争そのものは、まだ激しくはなっていなかったんですけども、ちょうど学校の裏側が海軍の飛行場になっておりましたので、校舎を偽装するために、遠く海の海岸からですね、アダンを切って、たぶん4年以上総動員されたかと思いますが、約2キロぐらいのところですが、そこからアダンを切って運んで、校舎の上に上げて、校舎を偽装したということもやりました。

それから6年生になって、やはり戦争が、沖縄はもう4月に上陸しておりますが、その前に石垣でも艦砲射撃がときどきありました。それで、学校から各集落ごとに分散して、大浜は大浜集落に、平得と真栄里は平得と真栄里の集落に、まあ一軒家を借りて、そこで授業をすることになりました。

授業の内容についてはあまり覚えていないんですが、戦争、4月前に、だんだん艦砲射撃も激しくなってきました、そういうかたちでの、授業になったかと思います。

3. 八重山中学校の頃

(1) 八重山中学校の入学式

山里先生

6年生になりますと、中学への試験がありましたので、八重山は八重山中学ですね。旧制の中学がありましたので、そこに大浜集落からは私一人、それから先輩で一人合格しました。それから、平得と真栄里からは、それぞれ一人かな。結局、私たちのクラスからは3名が、中学校に進学したということになります。

中学には進学したんですけども、ちょうど入学式の日ですね、艦砲、あ、艦砲じゃなくして、艦載機からの襲撃を受けました。ちょうど教育勅語を校長先生が読んでいたときだったと思いますが、ダダダダダーンという機銃しょう、掃射ですか、のものがありましたので、配属将校をしておりました、当時、高良鉄夫先生が、「みんな伏せろ」と言って地面に伏せて、それから、あちこち木の下に隠れるとかしました。

幸い、けが人は出なかったんですけども、式はもうそのまま中断して解散したわけです。

その後、私たちは、中学生は、鉄血勤皇隊ですね。まあ鉄血勤皇隊と言っておりましたが、それに動員されて、私たち1年生は鉄砲こそ担がなかったんですけども、上級生は兵隊と一緒に、戦闘態勢の状態、配属されております。主に通信関係のものに従事していたかと思えます。

で、私自身は八重山農林高校に配属、配置されて、そこで兵隊の食糧づくりをさせられ、さらに兵隊、将校の、雑務ですね。そういったものに従事しました。

3. 八重山中学校の頃

(2) マラリア蔓延

山里先生

たまたま6月に稲刈り休みच्छゅうなのがありまして、10日間の稲刈り休みがありまして、そのときには、もうすでに家族は於茂登のふもとに避難し、避難小屋をつくって、そこに避難をしていたわけなんです。

そんで於茂登（おもと）の避難所に行きまして、帰りましたが、そこはちょうどマラリアの、もうマラリアの蚊の媒介するところでしたので、みんなもすぐにマラリアにかかっていたということです。で、私も休暇で、まあ帰ったんですけども、マラリアにかかって、結局、部隊には帰れずに、終戦を迎えたということになります。

で、その間、避難所から戻りましたが、うちのおばあさんがやはりマラリアで亡くなりました。それから、姉も農林を卒業して、看護婦として勤めていたんですけども、終戦後は宮良の小学校の教員をしておりましたが、マラリアが再発して、結局亡くなりました。ですから家族からは、マラリアで二人が、まあ犠牲になっております。

大浜の集落でも、私の知っている方でも一家全滅ですね。一家全員マラリアで亡くなった方もおられます。石垣では沖縄本島と違いまして、実際の戦争、戦闘で、爆撃その他で、命を失った方はいない、少ないんですけども、マラリアでほとんどが犠牲になって亡くなったという状況でした。

4. 日常生活・日課

(1) 馬・山羊の草刈り、鎌投げ遊び

山里先生

日常生活ではですね、私が仕事を言いつかっていたのは、ウマの草刈り、それからヤギの草刈り。ウマもヤギも養っておいりましたので。

草刈りは、友だち同士で行きますので、遊びみたいなものでした。とても楽しい遊びでした。で、この草を一つの束にですね、束ねて、みんな抛出して、鎌投げっちゅうなのがありましてですね、丸い円をつくって、それに一番近いところに投げたのが草を全部もらうという、一つの遊びですよ。そういうかたちでやりました。それがとても楽しい、労働ではありますけれどもね、そんな楽しみも加わって、草刈り作業をやっていたということです。

それから、もう一つはウマに食べさせるのにですね、イモを靴でつついて、砕いて、水で溶かしてですね、そして、それをウマにやりました。いまもそうやっていますかね。ウマに食べさせるんですよ。それと、ウマの草ですね。これをやるのが、一つの日課でした。

ヤギの草はですね、ヤギの草は案外、木の葉っぱだとか、そういったものでしたので、家のすぐ近くにありましたので、そんなに時間はかけずに草刈りができました。日課としてはそういうものでしたね。

4. 日常生活・日課

(2) 陣取り・たまご取り遊び

山里先生

それから、遊びはですね、だいたい道路で遊びました。道は、もう車もありませんでしたので、陣取り遊びだとか、卵取り。卵取りっちゅうのは、ちょっと、いまはもうほとんどないと思いますが、ふた組に分かれて、卵をだいたい5個ぐらいかな、抱えて、そして両方の者が相手の卵を取るとか。

それで、取りに来たときに、足でけられたら、もうこの人は駄目になるわけですね。そうして、いくつ卵を取ったかと。あるいは、もう全部取るまで試合をすとかという、卵遊びがありました。

相撲取りなども、もう普通にやっておりますし、道でもやりますし、それから、海が近かったもんで、海岸に出て海岸で、まあ走り幅跳びをすとか、相撲取りをすとかですね、そういう、遊びをやっていました。

4. 日常生活・日課

(3) 水泳 - 芭蕉の幹 -

山里先生

それから泳ぎは、海ですので、小さい、小学校に入る前はですね、たいていの子どもたちは、芭蕉の幹がありますよね。バシヨウの幹。これを使って泳いでいました。

普通は泳げませんので、それにぶら下がってですね、泳いで、泳ぎの練習をすとか。小学校ぐらいになれば、もうほとんど泳げましたのでですね、毎日のように、私は泳いでいました。そうですね、泳ぎなどが一番の面白い遊びだったかもしれません。

4. 日常生活・日課

(4) 空襲・蛸壺（たこつぼ）

聞き手 A

質問なんですけれども、小学校のころ、例えば学校の先生とか周りの大人から、先生ちょっと、戦争の話になるんですが、敵兵については、どのようなものだというふうに教えられたりとかはしたんでしょうか。

山里先生

直接たぶん教えられていたとは思いますが、あんまり覚えていないんですけれどもね。鬼畜米英みたいな言葉は、あの時分から覚えておりました。

それに空襲。飛行機ですね、飛行機が撃墜されて米兵が捕まったというの、そういう事件もありました。それから、大浜の集落ですね、いまの小学校の前に、戦車壕つちゅうのか、こんな大きな溝をつくってあるのがあったんですけれどもね。それはアメリカが上陸して戦車が来たら、そこに陥れるというふうな、いま考えると本当に幼稚なものなんですけれどもね、そういうふうな壕もつくってありました。

で、蛸壺というようなのは、知ってるとおりですね。あちこちにありましたよ、蛸壺が。それから壕も戦争中はすぐ近くに、大きな津波石って、うちの集落の近くに津波石っていうようなものがあるんですけれども、その下にですね、穴を少し大きくして、私たちの家族、そうですね、2、3所帯ぐらいは、激しい空襲、空襲などのときは、そこに避難していたこともあります。

聞き手 B

以前お話を伺った仲本先生のお話は、米軍の兵隊さんからお菓子をもらったりとか、何かいろいろ、また米軍さんとの思い出もあったみたいなんですけど、石垣島では上陸。

山里先生 石垣では、もうそういう上陸してませんのでですね。

聞き手 B 上からのもの、ないんですよね。

山里先生

はい。それはなってないですね。終戦後は、進駐軍が来ておりましたんですけれどね。でも、子どもたちとのそういう、本島での話みたいなものは。

聞き手 B もうまったく。

山里先生 なかったですね。

岐阜女子大学「沖縄おうらい」

5. 苦い思い出

聞き手 A

何か、苦い思い出がおありということで。

山里先生

あ、はい。この話ししましょうか。これはですね、3つ、いまちょっと挙げてあるんですけども、一つは、さっき言った、相撲だとか、あるいは、レスリングみたいなかたちのものですよね。そういうもので、たまたまうちの近くに目の不自由な、この家庭の子どもと、遊びで取っ組み合いをしたことがあるんです。

で、そのときに、あの時分はもう着物ですので、着物の袖ですね、ここが、もう引ちぎられて破けたんですよ。そして、そのおやじさんがうちに来て、やっぱり文句を言ってですね、何でうちの子どもをこんないじめるか。

やっぱり障害者の家庭でしたので、何かそういった面で、いろいろあったんでしょうね。それで、よろしいということで、うちの姉が、その破けたものを全部縫って返したという事件がありました。

聞き手 稲福先生

それは何年ぐらいのことですか。何歳ぐらい。

山里先生

ええと、小学校の、たぶん3、4年だと思います。その子は、私より二つか三つぐらい下の子でした。

それから2個目。私は1年からずっと優等生だったんですが、3年に上がるときに、たまたま、じゃあ次も優等生になったら新しい服を買ってやるというふうな、うちで言われてですね、いたんですけども、ちょうどその前日に大雨が降って、石垣まで行かんといけない、買いに行けないもんですから、じゃあもうあとでって、みたいなことを言われたもんで、もう自分は怒って、いや、もう絶対それはならんと言って頑張ったようです。

そういう頑固なところがあって、結局それで折れて、これもみんな姉が、また石垣まで行って服を買ってきてくれたようです。

(続) 5. 苦い思い出

山里先生

最後のが一番、これもまたちょっと面白い話なんですけどもね。戦争とも関係があって。うん、そうですね。ちょうど私より2つか3つぐらいの者ですけども、そのおやじさんは、兵隊に徴兵されて、あ、軍に。南方の、たぶん、あとで聞いたらガダル、ガダルカナルあたりに行っていたようですが。それで、一人息子なんですけどね、実家がうちのすぐ隣だったんですよ。

で、実家に来て、息子二人と一緒に生活していたんですけどね。やっぱり、夫が出征してるっっちゃうようなことで、一人息子がいるということで、非常にかわいがっていたんですよ。

かわいがるのはいいんですけども、そのぶん、いろんな過保護みたいな、制約みたいなものもあってですね。子どもはそれに、また反発をしていた。ずっと私もついて遊んでいた子なんですけどね。

あるとき、どちらから先だったか分かりませんが、母親に反抗するというかたちで、ちょっと芝居みたいなものをやったんです。

私が、うちの縁側に、じゃあ縁側に隠れろと言って、縁側に隠れさせたんです。もう日も暮れて暗くなって、うちに帰らないもんだから、もうそれこそ心配して、大騒動になって、部落が。部落全体も海に捜したり、あっちこっち捜して、もう私にも、たぶん私が知っているはずだからといって、いろいろ言うけど、私も知らん振りして「知らん」と、はねつけていたんですよ。

それが何時間ぐらいかな。もうそれこそ、本当に大騒動して、もうもういいだろうと思って、床下から彼を出して帰したんですけどね。

ずいぶん絞られました、二人とも。だからそういう、まあこれも一つの戦争の、犠牲と言えね、犠牲みたいなもので、いま考えるとそういうふうに、とってもいいような事件かなというふうに考えております。

で、そのおやじさんは、戦後、無事に帰ってきております。ガダルカナルから帰ってきたんだそうです。だから、ずいぶん激戦地に行っていたということなんですよね。そういうこともありました。

6. 小学校の運動会・遊び

聞き手 稲福先生

小学校の、そのころの、低学年のころかね、中学年のころの、校の様子というか、先生自身が感じられたことみたいなことなどがありましたら。

山里先生

ああ、そうですか。そうですね、私は、非常にスポーツが好きで、特に鉄棒ですね。あの時分、鉄棒っちゅうなのが非常に盛んでした。ですから、よく鉄棒をしておりましたが。それは高校になっても、ずっと鉄棒をやっておりましたんですがね。

それからランニングも、足が非常に速いほうだったんで、あの時分、郡の運動会っちゅうなのが、郡というか八重山郡のですね、運動会っちゅうなのが毎年ありまして、小学校は4、5、6の小学生は、リレーが1つの種目としてありまして、4年生からずっと代表で出ていました。4年、だから5年も6年もということですね。まあ、そうですね。

聞き手 稲福先生

あのころの運動会というのは、どのような。いまとは違うんでしょうか。

山里先生

運動会はですね、いまとだいたいおんなじようなかたちですけども、主にそういう、走るのが主な競技になっていたと思います。だから、マスゲームだとか、いまやっているような、そういうようなものはあまりなくて、ほとんどが走る競争だったと思います。走る競争では、いつもいい成績をとっていました。1番でした、いつも。

聞き手 稲福先生

小学校の授業が終わって、学校から帰るとか、その道なかとかでの思い出とかはございますか。

山里先生

そうですね、まあ寄り道といえば、あの、ちょうど友だちの家に大きな木があって、そしてその木の上に、あれ何ちゅうんかな、ダン、ダン、ダンですね。ダンをつくって、そこで4、5名集まって、上に上って遊んだと。というのがあります。

(続) 6. 小学校の運動会・遊び

聞き手 稲福先生

これは何歳ぐらい。小学校で。

山里先生

4、5、4年か5年ぐらいのときだったと思いますね。

さっきも学校が大浜集落、それから平得、真栄里という、から成っているということを言いましたけれども、やっぱりそれぞれの集落ごとの対抗意識というようなのもありましてですね。

けんかもやりましたよ、集落ごとに。集落ごとのけんかもありました。まあ、けんかといっても、ほとんど石を投げ合うとかっていうかたちのものですね。そういうのがありました。

そのほかの遊びっちゅうのは、小学校のときはあまり。あまりないですね。木の上に登るっちゅうなのは、木登りは結構、結構ありましたよ。木登りはね。木登りはするし、あるいはそこに、さっき言ったダンをつくるとかっていうかたちのものですね。

それから、海辺にはヤラブが、大きなヤラブの木がありましたので、そこにブランコをつくって、ブランコ遊びですね。それからブランコで、飛ぶの。これ、どないして飛ぶのかな。こうして飛ぶのがありますよね。飛び勝負。それなどはよくやりました。

そうですね、そういう遊びを。

7. 当時の食生活について

聞き手 A

ご家庭での食事、食卓にはどのようなものが並んでいたんでしょうか。

山里先生

食卓はですね、普通は、うちで米をつくっていましたので、ご飯は米のご飯がありました。もちろんイモも。イモは、もうふんだんにありましたので、さっきも言ったように、ウマにも食べさせるぐらいのものがありましたのでね。それから、野菜も全部自分でつくっておりましたので、野菜をつくるとかですね。

それから、うちのおばあさんはですね、もう 70 過ぎても海に行くんですよ。自分自身の、あの人の自分自身の蛸壺を持っているんですね。蛸壺は娘にも教えないというぐらいの。確実に捕ってくるんですよ。

もうみんな心配して、年寄りですから、もう海に出るなって言ってるんですが、必ず行くんです。行ったら必ず捕ってくる。タコが捕れない場合はカニですね。カニをたくさん持ってくるとか、貝を採ってくるとかですね。ですから、海のものもたくさんありました。

タコは特にゆでて天日に干してですね、ぶら下げておいて、毎日食べさせてくれました。ですから、自分でも、もうぶら下がっていますので、切って、いつでもしゃぶることができました。だから食事は、それ。たぶん、だいたい、そういうかたちのものを取っていたと思います。

聞き手 A

いまで言うおやつみたいなもの、甘いものはありましたか。

山里先生

おやつみたいなものはなかったんですけれども、学校から帰るとですね、どういうわけか、ニンニクを漬けてあるんですよ。ニンニクはありました。ニンニクを漬けてありましてね、ニンニクとイモをくれました。おやつはですね。だからニンニクはよく食べましたです。

それと味噌。これがおやつです。タコは、タコはいつでも食べられましたけどね。そういうものがおやつでした。

(続) 7. 当時の食生活について

山里先生

ああ、それから、さっき夕飯の話しましたかね。いつも遅いもんでですね、もう私居眠りして、十分に食事を取らないで、よく怒られておりました。

食事が遅いんですよね、夜ね。みんな石垣まで行って、そこから、おかずを買って、それから料理をつくって食事するもんですから。何か食べない、居眠りして食べないと、夜中に何かが出てきて、鍋をがらんがらんと鳴らすよとって脅かされてですね、ちゃんにご飯を食べるように、よく言われました。

聞き手 A

お風呂とかは、どういったかたちで入っていたんですか。

山里先生

お風呂はですね、お風呂そのものは、もうないですね。ですから水浴びですね、水浴び。ちょうど、うちの隣に井戸がありましたので、その井戸はですね、雨水じゃないんですよ。半分半分かな。飲み水にはもう使えないですけども、そういうシャワーだとか、そういったものには使えましたので、そこから運んできて、そして水浴びをするという程度です。お風呂はなかったです。

聞き手 稲福先生

普段の子どもたちの服装というのは、どのような。

山里先生

服装はですね、いま考えると、ここにもありますので、学校へ行くときはたぶん、学校のそういう服装があったんでしょうね。ありました。だからそれを着ていますが、普段は着物ですね。着物。着物で、遊ぶときははだしですね。

正月のときは、特に、げたを買ってもらったとかですね。それが一番の楽しみでした。げた、げたですね。服も帽子も、帽子が、帽子もあるっちゃんなのは、これはちょっと、あんまり、ね。帽子かぶってるのも、かぶってないのもいますけど、一応あったんですね。服はありました。

8. 子どもの楽しみ

(1) 正月

聞き手 A

先生の幼少時代といいますか、いろいろな年中行事があると思うんですが、それに関するお話をお伺いしたいです。

山里先生

はい。まず正月ですね。正月で一番楽しいのは、たこ揚げでした。元旦じゃなくて、大みそかの晩はたこをつくるの。その前に、たこの骨組みはつくるんですけどね、紙を張るのは、もう大みそかの日に紙を張って、たこをつくりました。それが一番の楽しみでした。そして正月に、新しいげたをもらうのが、もう楽しみでしょうがなかった。

で、たこ揚げはもう、よくやりました。海が近くでしたので、もう海でたこを揚げて、それをそのまま家まで持ってくるんですよね。で、家につなげて、ずっと夕方になったら、また戻すとかってというのが。

それから、正月にはもう、一家そろって、いわゆる、方言で言う年頭（ニントー）。標準語では何て言うんですか。ニン、年頭って言って、お酒をみんなにして、お祝いです、要するにね。お祝いを、お父さんに一人一人、みんなお祝いの言葉を述べるんですね。そういう習慣がありました。

これは、あんまり沖縄本島ではないみたいですね。それで、うちの、結婚してうちの家内も、八重山でそういうものを体験して、ああ、ぜひこれはうちでも続けようということで、いま、正月には子どもたちが来たときに、必ずこの親に対して、ひとこと今年の、抱負みたいなものですね。そういったものを、ひとこと言ってもらおうということをやっております。

それから、ああ、あの、親せき回りはですね、まず家族。全員は行かないんですけども、おやじと、長男。それから、おふくろもかな。そういう、いわゆる家元、家元じゃないな。何ちゅうのかね。その大本になる家ですね。そこに、折をみんな持って行って、そこでも、お祝いをするということなどをやっておりました。お正月はだいたいそんなもんですね。

8. 子どもの楽しみ

(2) 豊年祭

山里先生

で、豊年祭は、これはもう子どもにとって、とっても楽しみの一つでした。特に綱引きはですね、上の部落と下の部落、大浜集落で言うと上と下の部落の綱引きがありまして、上が勝つとうんと豊作になるとか、下が勝つとどうのという、何かそういうのがありまして、綱引きは非常に楽しみの一つでした。

それから、綱引きの、豊年祭に、つながる行事なのだったのか、お盆なのか、そこはちょっと覚えないんですけども、それぞれですね、お宮、お宮さんやったか、オンちゅうのがあるんですけど、これは何ちゅうか、たくさんあるんです。それぞれのね。

で、そこに泊まり込みで、何か行くようなものがあって、私も小さいときにおやじに連れられて泊まり込みで、何かその、オンというんですけども、そこで過ごした記憶があります。

たぶんいまも、そういったの続いているかどうかは分かりませんが、そういう宗教的な何かは、まだあります。そういうのは、子どものころ、とても興味があって、また楽しい思い出になるようなものでした。行事といえば、だいたいこの三つが一番大きな行事だったと思いますね。

聞き手 稲福先生

あの、正月というのは新でしょうか、旧でしょうか。

山里先生 新です。

聞き手 稲福先生 新で。

山里先生 はい、はい。新です。八重山はみんな新です。

聞き手 稲福先生 お盆のほうは。

8. 子どもの楽しみ

(3) 獅子舞

聞き手 稲福先生

獅子舞とかそういうものとかは。

山里先生

獅子舞はなかったんですが、青年。あの時分はなかったですね。いまは青年会か何かで、公民館でそういったものを行っているみたい。

あ、獅子舞ありました。ありました、ありました。どうも。獅子舞はですね、あれはお盆かな。お盆、お盆ですかね。どこでやった。お盆か、でやっています。はい。

これはもう、伝統的なものがあって、その家でしかやらないものなんですよ。そこが獅子のあれを持っておりましてですね、そこで獅子舞をやりました。

これも非常に神秘的なもので、子どもにとっては、もう楽しいあれでした。いまみたいに公なかたちでやるというものじゃなくして、その家だけに伝わったものとしてですね、伝統的にその家で、そのときの行事として獅子舞をするというかな。

あれはオンだったのか、ちょっと忘れまして。分からないですね。調べれば分かりますけども。ありました、獅子舞は。

聞き手 稲福先生

海の近くということで、海神祭とかそういうのはあった。

山里先生

海神祭はなかったですね。そういうのはね。それはありそうなものですけども。豊年祭は主に農業ですので、漁業ではなかったですからね。豊年祭は、だいが力を入れてやってみましたけど、海神祭みたいなものはなかったですね。